

平成 12 年 4 月 3 日

## 保存修復工事が進む重要文化財「自由学園明日館」

### —米国よりライト財団が視察—

羽仁吉一・もと子夫妻によって設立された「自由学園」は、大正デモクラシー期の自由教育運動の象徴として大正 10（1921）年西池袋の地に開校された。その校舎として、大正 10 年から 5 年かけて建設された「明日館」（西池袋 2-31-3）は、アメリカの著名な建築家フランク・ロイド・ライトとその弟子遠藤新により設計された。同館は国内に現存する数少ないライト設計の建築物として、その文化財的価値の高さから、同館に隣接する講堂（ライトを範として遠藤新が設計）とともに、平成 9 年 5 月 29 日、国の重要文化財に指定された。

\*帝国ホテルの建設のため 1915 年から 1922 年にかけて来日していたライトは、12 件の建築物設計を行ったが、実際に建築されたのは 6 件、そのうち現存するのは明日館を含め国内で 3 件のみとなっている。昭和 9 年の東久留米への学園移転後「明日館」と名付けられた同施設は、卒業生が運営する消費組合・工芸研究所等の場として活用されてきた。

重要文化財の指定を受け、現在「明日館」では保存修復工事が進められているが、「近代文化財建造物は使いながら保存する」という文化庁のいわゆる動態保存の方針に則り、地域交流・生涯教育の場として活用を図るため、保存修復工事にあわせて付帯する建物も同時に建築することとなった。（重要文化財指定説明、活用計画平面図：別紙①～③参照）

国の補助事業としての保存修復工事の総工費は 7 億 7 千万円（うち 75%が国と都からの補助）、平成 13 年 9 月完成をめざしている。また、付帯建物の総工費は 5 億 5 千万円の予定で、双方あわせて多額な経費となるため、現在自由学園では修復にかかわる寄付金を募集している。

（財）豊島区街づくり公社では、「明日館」を区の大切な文化的遺産として、その修復工事を支援していくことになった。そのため、平成 11 年度には、支援を呼びかけるパンフレットの作成、区役所ロビーでのパネル展示による PR などを行ってきたが、12 年度からはさらに支援の輪を広げるため、区内各団体や企業への働きかけも行っていく予定である。（支援のためのパンフレット抜粋、寄付金募集趣意書：別紙④～⑥参照）

本日午後、工事中の明日館を見学するため、米国よりライト財団（THE FRANK LLOYD WRIGHT FOUNDATION）より、財団のメンバー 9 名が視察に訪れた。ライトの建築物の保存を目的として 1989 年に設立されたライト財団は、現在 1300 人のメンバーを数え、シカゴを本拠地として活動を展開している。

修復工事のため骨組みだけとなった明日館内部を見回ったメンバーは、「建築の構造がよくわかり、大変参考になった」と語るとともに、修復工事について「子どもが大きな手術を受けているようだ。工事が順調に行なわれ、完成することに大きな希望を感じる」と、感想を述べた。また、明日館について、「来日したライトの最後の作品であり、彼の作風が典型的に現れている世界的な遺産。明日館は帝国ホテルのエコー（こだま）のような存在であり、非常に重要な建物である」と称賛した。

詳細：広報課